

1980年 3月 制定
1996年12月 改正
1997年 6月 改正
1998年10月 改正
2000年 3月 改正
2006年11月 改正
2015年10月 改正
2016年 4月 改正
2023年 1月 改正

同志社大学ハリス理化学研究報告投稿規程

同志社大学ハリス理化学研究報告編集委員会

1. 投稿資格

論文の投稿は原則として本研究所に所属する所員に限る。ただし前述以外の研究者を含むことは差し支えない。また、編集委員会が承認した場合はこの限りでない。

2. 投稿の種類と要件

投稿論文の種類は、原著論文、レビュー、研究ノート（データレポート等）とする。投稿論文は、日本語または英語で執筆し、本研究所の目的を達成するために行なわれた研究で、新しい価値ある結論、あるいは事実を含むと認められ、かつ本研究報告に掲載される前に他の出版物に発表されていないものに限る。例外として、ハリス理化学研究所が主催もしくは共催する研究発表会等の予稿等、著作権法上問題のないもの、速報として研究報告に掲載された研究ノートを発展させた論文、arXivなどのPreprint serverへ投稿された論文は投稿可とする。（その場合、既発表であることを投稿原稿中に明記し、既発表の原稿を添付する。）ただし、レビューは必ずしも新規性を問わない。

3. 執筆要領

3.1 ページ数制限

論文のページ数は12ページ以内とする。ただし、編集委員会が承認した場合はこの限りでない。

3.2 用紙

- a. A4判の用紙を縦長に使用し、横書きとする。
- b. 用紙は、周囲には上35mm・下20mm・左右20mmの余白を残し、2段組にする。
- c. 書式（フォント・文字サイズ・行間など）は、テンプレートを参照のこと。

3.3 整理

- a. 規定の投稿票に必要事項を記入する。

- b. 投稿論文は鉛筆書きで通し番号（ページ番号）をつける.
- c. 本文原稿（表，図，付録，参考文献等を含む）の第1ページに，以下の順で所定の項目をおく.
- ・ 英語表題
 - ・ 英語著者名（全著者の所属および連絡先を脚注に入れる）
 - ・ 受理日（原稿提出日）を記入
 - ・ 英語要旨
 - ・ キーワード（5個以内，英語）
 - ・ キーワードの日本語対訳（英語論文の場合は載せない）
 - ・ 日本語表題（英語論文の場合は載せない）
 - ・ 日本語著者名（英語論文の場合は載せない）
- d. 英語要旨の日本語対訳（英文査読用）を「同志社大学ハリス理化学研究報告投稿票」に記載する.

3.4 原稿フォーマット

3.4.1 表題

- a. 英語表題は，冠詞，接続詞，前置詞以外の各単語の頭文字を大文字にする.

(例) The Science and Engineering-----

Two-Mode-----

- b. 省略表題（ランニングヘッド）を投稿票に記入すること.

(日本語論文；日本語30文字以内，英語論文；スペースを含め英語40文字以内)

3.4.2 著者名・所属・連絡先

英語著者名は姓名とも略さず，姓はすべて大文字とする.

著者全員の所属および連絡先は，英語著者名の右肩に*，**印等を付け英語で記す.

筆頭著者と研究所員の発行日現在のメールアドレスは，必ず記す. 筆頭著者が卒業の場合，進学・研究員でないならば，研究所員のアドレスのみでも可.

(例) Taro KONO,*Jiro KONO,* and Saburo KONO**

* Department of Knowledge Engineering and Computer Sciences,
 Electrical Engineering,
 Electronics,
 Mechanical and Systems Engineering,
 Energy and Mechanical Engineering,
 Molecular Science and Technology,
 Chemical Engineering and Materials Science,

Doshisha University, Kyoto

Telephone:+81-774-65-6220, Fax:+81-774-65-6804,

E-mail:tkono@mail.doshisha.ac.jp

** Harris Science Research Institute, Doshisha University, Kyoto

Telephone:+81-774-65-6224, Fax:+81-774-65-6805,

E-mail:skono@mail.doshisha.ac.jp

※電話とファックスを共用している場合 Telephone/Fax:+81-774-65-6805

3.4.3 キーワード

英語キーワードを英語要旨の下に、固有名詞、略号以外はすべて小文字で記す。
行を改め、キーワードの日本語対訳を記す。

(例) **Keywords:** diffusion equation, Fick's law, BZ reaction

キーワード: 拡散方程式, フィックの法則, BZ反応

3.4.4 本文

a. 日本語、英語とも区分けは「, 」 「. 」を用い1コマ(字)をあてる。

英語では、文章のくぎりの場合にはさらに1コマあける。

新しい行の始めは、日本語は1コマ、英語は5字あける。

b. 章は1, 2, ---の番号を用いる。体裁は英語の場合、表題の書き方に準じる。

(例) **3. Results and Discussion**

c. 節は1.1, 1.2, ---さらに1.1.1, 1.1.2---のように番号を付ける。

英語の場合最初の文字だけ大文字とし全体をTimes New Romanの斜体に指定する。

(例) 3.1 *Data analysis*

d. 一行立ての数式には、(1), (2), ---のように番号を付ける。あるいは章の番号を用いて、(1-1), (1-2), ---のように付けても構わない。

e. 文中で数式や図を参照する場合には、例のように記す。

(例) 英語 Eq. (1), Eqs. (1)-(3), Fig. 1., Figs.1-3

ただし文頭では Equation (1), Equations (1)-(3), Figure 1, Figures1-3とする。

日本語 式 (1), 式 (1)-(3)

f. 文中に入れる数式は、 a/b , $\exp(-E/kT)$ のごとく横につづける。

3.4.5 謝辞

a. 参考文献の前に入れる。タイトルはつけず、本文との間を一行あけて書く。

b. 補助金を受けて研究を行った場合は、その旨記載する。

3.4.6 参考文献

a. 文献は本文の終わりにまとめ、本文での引用順に番号を付す。本文中での引用方法は、字の右肩に上付で ¹⁾, ^{1,2)}, ¹⁻³⁾, ^{1,3-5)} のように文献番号を記入する。

b. 文献の記載順は次による。

雑誌の場合; 引用番号) 著者全員の氏名, “表題”, 雑誌名, 巻[号],

最初のページ-最後のページ(発行年)。

書籍の場合；引用番号) 著者全員の氏名，書籍名（出版社，所在地，発行年），ページ。
編著中の論文の場合；引用番号) 論文著者全員の氏名，論文名，編者全員の氏名，書籍名，
（出版社，所在地，発行年），最初のページ-最後のページ。
国際会議；引用番号) 著者全員の氏名，“表題”，学会論文集名，
最初のページ-最後のページ（発行年）。
国内大会，研究会論文集；引用番号) 著者全員の氏名，“表題”，学会論文集名，分冊また号，
no. を付けて論文番号，最初のページ-最後のページ（発行年）。
Webページの場合；引用番号) 著者名，“Webページ表題”，サイト管理者名等，
URL。（参照年月日）

- c. 日本語文献の場合，著者名は原則として全員のフルネームを記載する。
英語文献の場合，ファーストネーム，ミドルネームはイニシャルのみを記す。
- d. 英語文献の表題の体裁は，原稿表題の書き方に準じる。
- e. 英語文献の場合，書籍，雑誌，論文集名は斜体にする。
- f. 雑誌名は，通常用いられる略号を使用する。

（例）

- 1) 吉田 茂，“田辺校地の自然環境”，自然環境学会誌，**32** [2]，693-702（1976）。
- 2) C. E. Shannon，“A Mathematical Theory of Communication”，*The Bell System Technical Journal*，**27**[3]，379-423（1948）。
- 3) 岸 信介，新町の歴史，（烏丸出版，京都，1975），p. 23.
- 4) L. L. Beranek，*Acoustics*，（McGraw-Hill，New York，1954），p. 180.
- 5) 佐藤 栄作，“今出川と私”，池田 隼人編，御所近辺，（烏丸出版，京都，1975），pp. 123-220.
- 6) T. Hata，Mechanics of Flaps and Wings，in M. Ohira (ed.)，*Advanced Mechanics*，（Academic Press，New York，1970），pp. 180-220.
- 7) J. K. Kennedy and A. Lincoln，“A Program for Register Allocation”，*Proc. the Design Automation Conf.*，210-215（1987）。
- 8) 韓 太舜，“[招待論文] 情報スペクトル：あれこれ”，電子情報通信学会技術研究報告，情報理論，IT2003-54，31-39（2003）。
- 9) 電子情報通信学会 編集出版部，“電子情報通信学会和文論文誌 投稿のしおり”，
http://www.ieice.org/jpn/shiori/iss_mokuji.html（2021.04.21）。

3.4.7 表

- a. Table 1, Table 2のように通し番号をつける。
- b. 表中の説明は英語とする。最初の単語の頭文字を大文字とし，説明の終りにピリオドはつけない。ただし，必要な場合は日本語表記も可とする。
- c. 表の見出し文は，英語とする。

（例）Table 1. Physical properties of methanol.

3.4.8 図（含写真）

- a. Fig. 1, Fig. 2のように通し番号をつける.
- b. 図の見出しや説明文字は英語（見出しについてはTimes New Roman）とする.

ただし、説明文は必要な場合、日本語表記も可とする。 (例) Fig. 1. Time dependence of the product concentration.

4. 電子ジャーナルへの掲載

本報告に投稿された論文は、本学電子ジャーナル（同志社大学学術リポジトリ）へ掲載する。

5. 投稿原稿の提出について

5.1 提出媒体

投稿原稿は、紙出力による原稿1部と電子データを提出のこと。
なお、電子データのコピーは必ず手元に保存のこと。

5.2 リポジトリ掲載日

本報告のリポジトリ掲載日は、原則として次のとおり。

リポジトリ掲載予定日

No. 1	4月末日
No. 2	7月末日
No. 3	10月末日
No. 4	1月末日

5.3 提出先

投稿票に必要な事項を記入のうえ、ハリス理化学研究所事務室（理化学館1階）に提出すること。
なお、提出された原稿は原則として返却しないので、投稿前に必ず控えをとっておくこと。

6. 著作権の譲渡

本報告に掲載された論文の著作権は、本研究所に帰属する。そのため、著作権譲渡書を提出のこと。
なお、著作権の譲渡を行っても、以下の権利は著作者の手元に残るものとする。

- a. 著作権以外の例えば特許権のような権利.
- b. 著者が自分の業績をまとめる際に、その一部分として使用すること.
- c. 著者が営利を目的とせず行う複製（例えば教育資料としての使用）.
- d. その他、日本の著作権法に反しない利用.

7. その他

表記詳細について、本規程に拠ることが困難な場合は委員長判断とする。